議会だより ぜひ1度議会の様子をご覧下さい。

12月議会は希望しましたが、残念ながら会派の中で一番質問回数が多いということで一般質問はできませんでした。2月から3月にかけて行われる予算議会では質問に立たせていただきます。現在本会議はケーブルテレビの放映やインターネットの北九州市議会のホームページで録画映像がご覧いただけます。また予算特別委員会の中、3つの分科会や市長質疑は議会に傍聴にいらしていただけますとご覧いただけます。

予算特別委員会の分科会は3月13日(火)から16日(金)にかけて
市長質疑は19日(月)となっています。
尚傍聴席は人数に限りがあり先着順となりますことご了承下さい。

また議会後、議会全体の報告会が次回は若松区、門司区、八幡東区で行われる予定です。
詳しい日程は今議会中に決まりますので次号でお知らせ致します。

経済協力開発機構(OECD)のグリーン成長モデル都市選定に続き、北九州市が国の環境国際特区・環境未来都市に選定されました。

報道などでご承知だと思いますが、ここのところ本市の未来にとって大変明るい話題が続き、昨年末、国の環境国際特区・環境未来都市に選定されました。これまでも議会などでも取り上げてきただけに大変うれしく思います。どちらも大枠については選定されましたが、今後どう活用していくかが重要で、詳細については現在、作業中ですので、次号で少し詳しくお伝えしたいと思います。

OECDグリーンシンポジウムにて
北九州環境マスコットていたんと

政審会長として会派の要望をまとめ市長に

平成24年度予算の会派要望を政策審議会のメンバーとまとめ12月15日に会派全体で市長に要望書を渡しました。要望書は重点要望、各局別要望、各区別要望と3段階でまとめています。ちなみに若松区に関する要望は以下の通りです。もちろんすぐにできることばかりではありませんが、若松区の未来のために一歩一歩頑張ります。

市長要望にて

- **●若戸大橋50周年記念事業として、若戸大橋をコースとしたマラソン・ウォーキングなどの市民大会を開催すること。**
- **●江川校区と花房校区に市民センターを設置すること。**
- **●藤木地区周辺の住環境整備を行なうこと。**
- **●新若戸トンネルの第二期工事を早期実現し、交通渋滞の解消を図るとともに浜町地区の自動車騒音を解消すること。**
- **●若戸大橋の通行料金の無料化については、大きな視点での政策的、政治的判断により、一日でも早く若松区民の負担軽減を図ること。**
- **●若松駅周辺と、二島駅周辺の交通の結節点づくりを図ること。**
- **●ＪＲ筑豊本線の電化と、洞海湾横断鉄道の実現を図ること。**
- **●若松東地区のまちづくりについては、定住促進のための住環境整備を図り、中心市街地の活性化を図ること。**
- **●高齢者や弱者の足を確保するため、高台や交通不便地域のお出かけ交通取り組みを図ること。**
- **●軍艦防波堤については、平和の大切さ、歴史資料、観光、映画の舞台等など、価値を再確認し、街づくりに生かしながら、腐食から守り後世に残すこと。**

環境建設委員会報告 議会閉会中1月には2度常任委員会がありました

1月13日には若松に今年オープンします響灘ビオトープを視察しました。以前議会でも質問をしましたが、このビオトープ、写真のように産業廃棄物処分場跡地の一見単なる草っぱらですが、埋め立ての完了後、時間の経過とともに環境省の絶滅危惧種を含む昆虫や鳥が多くみられる場所となっています。今はまだ古いプレハブが立っているだけですが、今年の秋には自然環境の保全に取り組む市民・ＮＰＯ等の活動拠点でもあり学習施設「ネイチャーセンター」が完成し、修学旅行や環境エコツアーなどを受け入れていく予定です。すでにエコツアーなどは行われていて、これまで育んで来られた係員の方の説明をいただくと単なる草っぱらが自然の宝の場所であることに気づかされます。

1月19日は「災害廃棄物に含まれる放射性物質について」の所管事務の調査を行いました。東日本大震災以降、この間本市は特に鉄の町の仲間である宮城県釜石市への支援を行って参りました。その中で災害廃棄物処理について本市で受け入れる？等の話がありましたが、本市から廃棄物処理の専門的な知識と経験を有する職員を派遣し、業務の実施に中心的な役割を果たし、旧清掃工場が残っていたことなども幸いし、可燃物の処理は大きな状況の変化がない限り本市に依頼する可能性がほとんどなくなった旨の報告がありました。ただ今後国の動向もあることから、現時点で事実として確認されている放射性物質について委員会で共通認識を持つための調査を行いました。特に放射線による人体への影響は多くの皆様が関心をもたれている事と思います。ただ低レベル放射線の被ばくによる影響は専門家でもよくわからないと言われており色々な意見があります。また自然界にはもともと放射性物質は存在していて、国や地域によって差異があることや、飛行機に乗ると日常より多く受けるなど行動によっても基本的な違いもあり、また生活の中での飲酒や喫煙、事故、感染症など他の要因による影響と区別できない現状もあるようです。これからも注視していきたいと思います。

響灘ビオトープにて